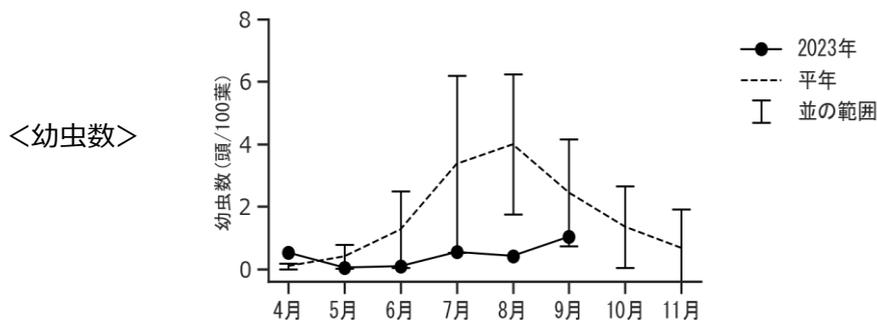
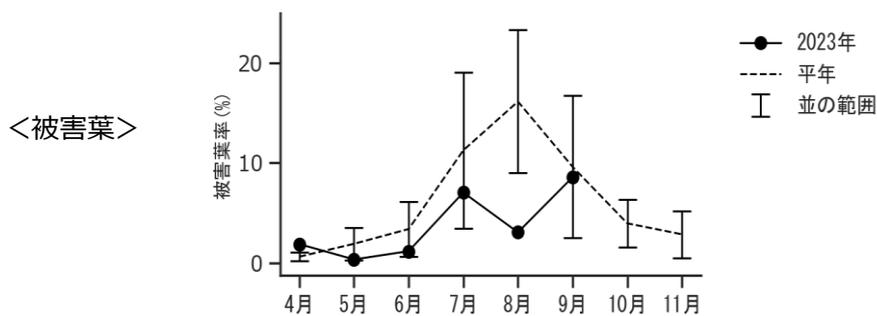


| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | カンショ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① イモキバガ (イモコガ) | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予 報 | 9 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↓) | |

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率85.7% (平年 : 86.8%)

防除のポイント

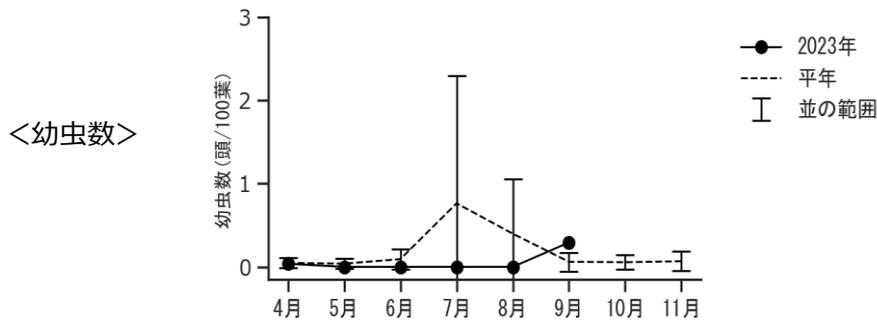
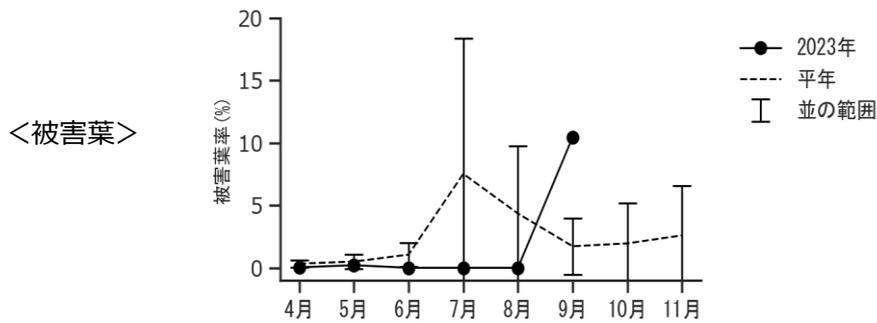
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。



| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | カンショ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② ナカジロシタバ | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | → | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今期と平年の発生推移



- ・発生ほ場率28.6% (平年 : 42.6%)
- ・一部ほ場での被害葉の多発生

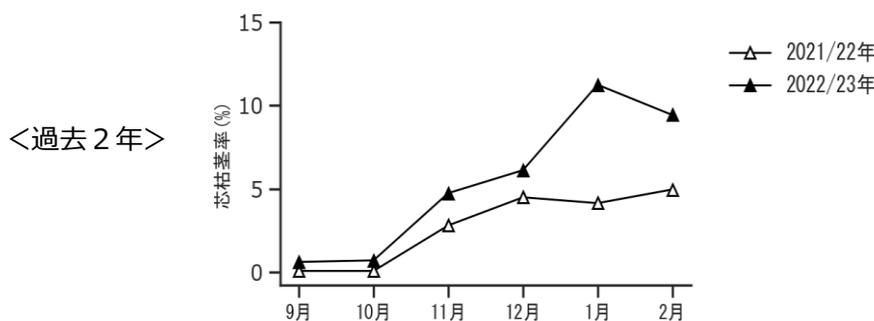
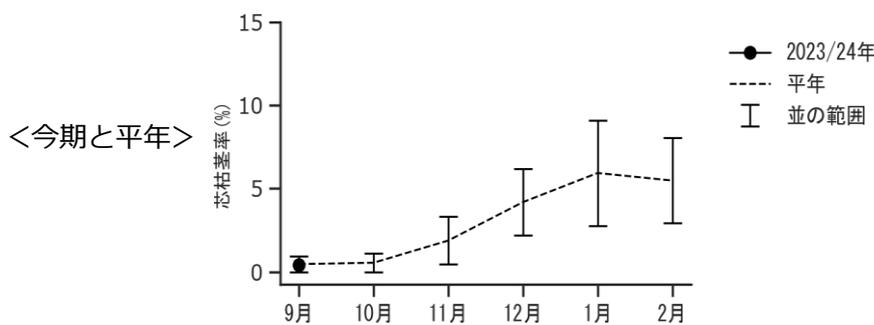
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

| | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|---|
| 作物 | さとうきび | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類 | | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予 報 | 9 月からの増減傾向 | → | | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | | |

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ、イネヨトウ
- ・発生ほ場率43.8% (平年：34.8%)

防除のポイント

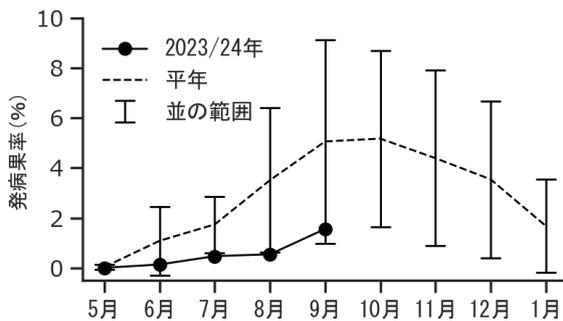
- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

| | | | |
|-------|--------------|--------------|------|
| 作物 | かんきつ（タンカン） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① かいよう病 | | |
| 調査結果 | 9月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 9月からの増減傾向 | → | |
| | 10月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | |

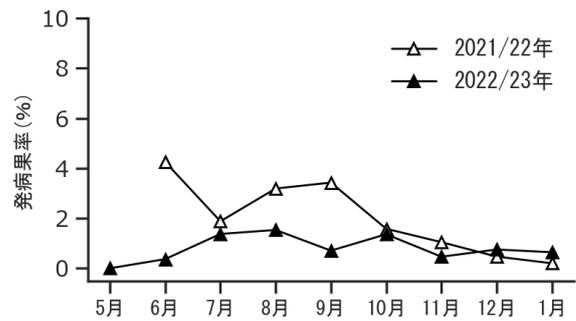


調査結果

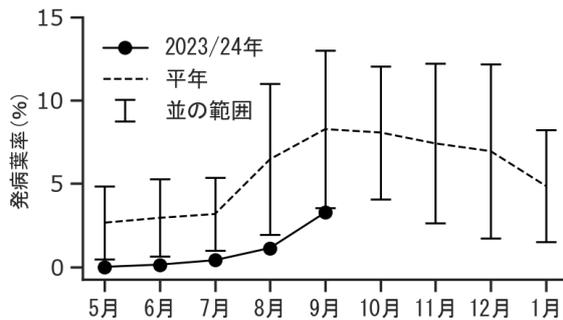
発病果率の推移（今期と平年）



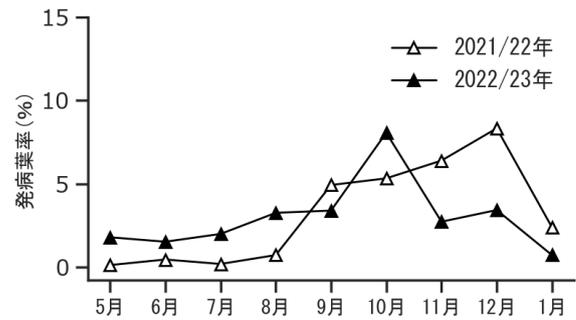
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.3（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：78.7%）

防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

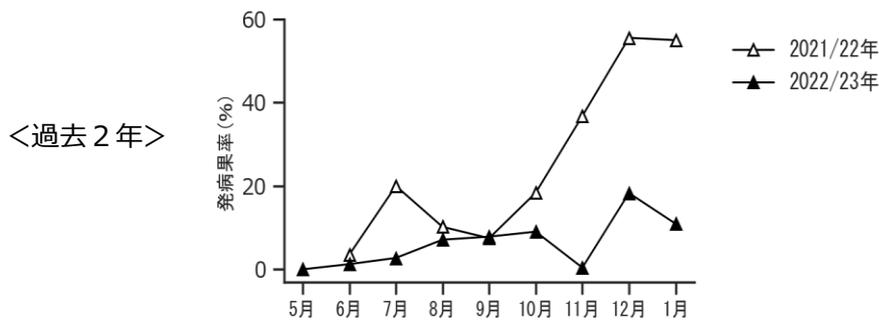
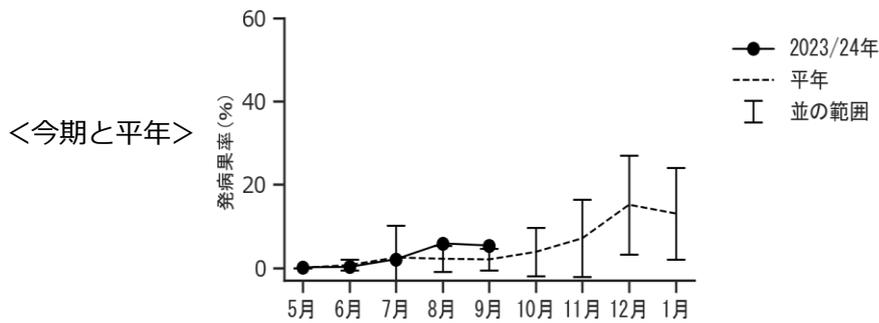


被害葉→

| | | | | | |
|-------|---------------|--------------|---|------|--|
| 作物 | かんきつ（タンカン） | | 地域 | 沖縄群島 | |
| 病害虫名 | ② 黒点病 | |  | | |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | やや多 | | | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | ↗ | | | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | | | |

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.1（平年3.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：46.8%）

防除のポイント

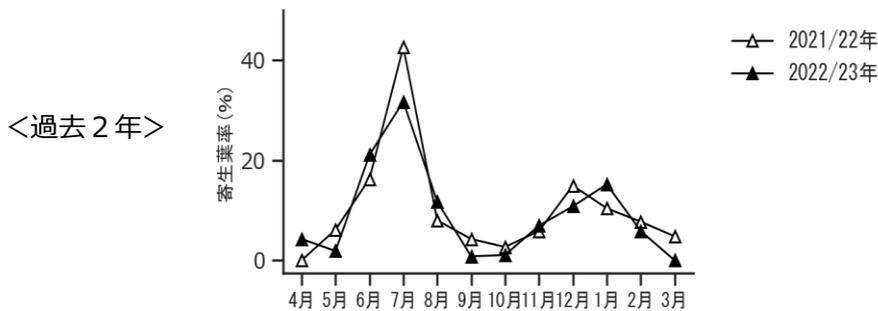
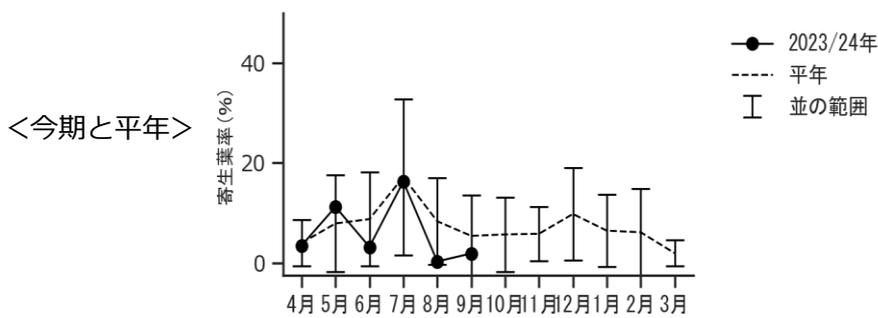
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

| | | | |
|-------|---------------|--------------|------|
| 作物 | かんきつ（タンカン） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ ハダニ類 | | |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | → | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | |



調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率60.0%（平年：30.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

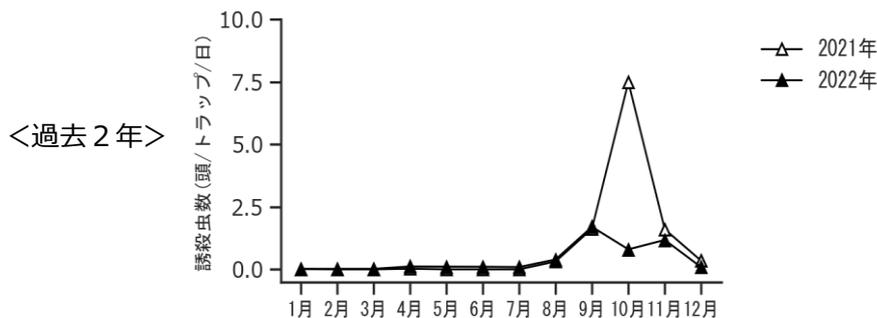
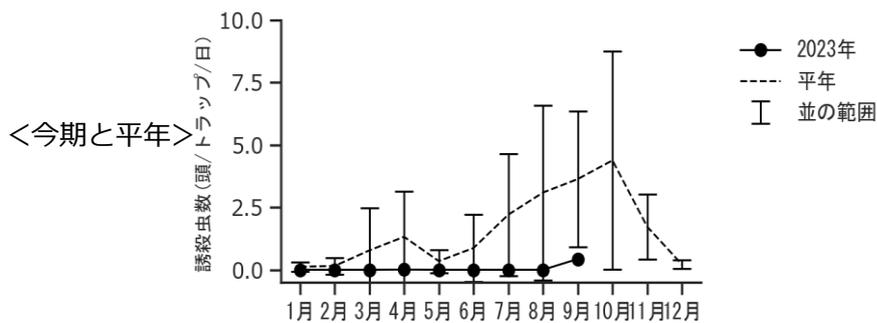


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チャノキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予 報 | 9 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 100%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

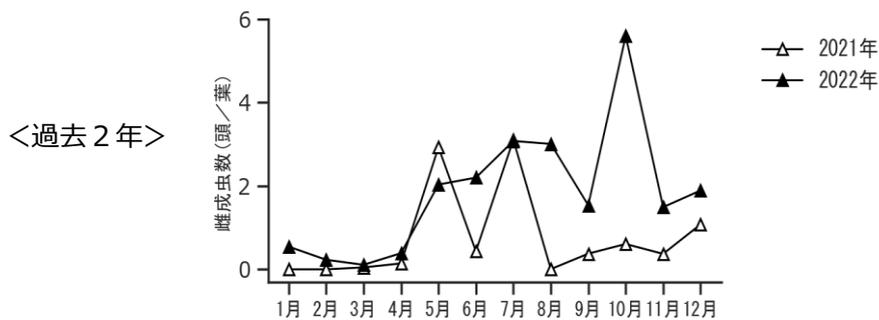
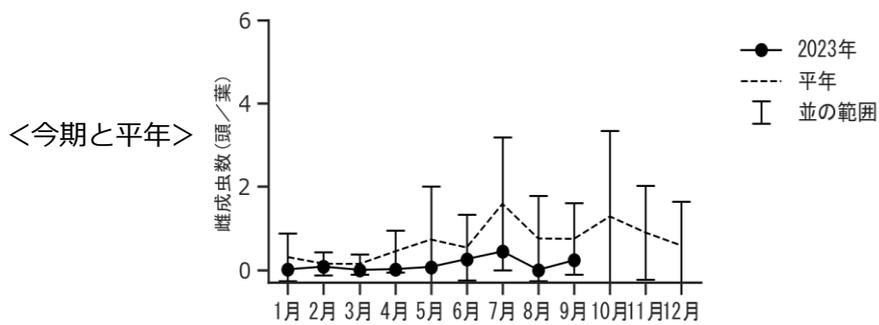


ナガエコミカンソウ

| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | | |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | 並 |  |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率25.0% (平年：65.3%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

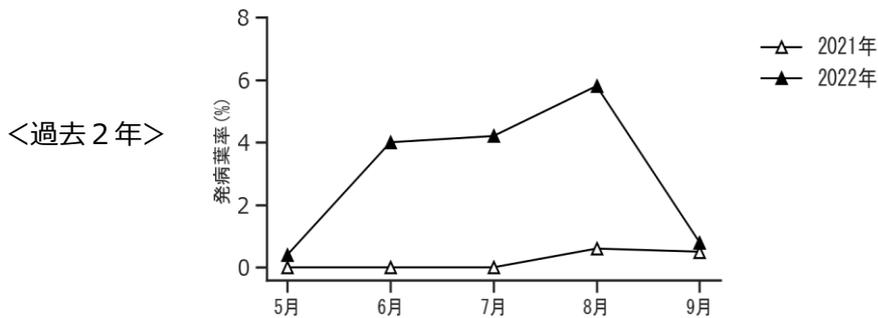
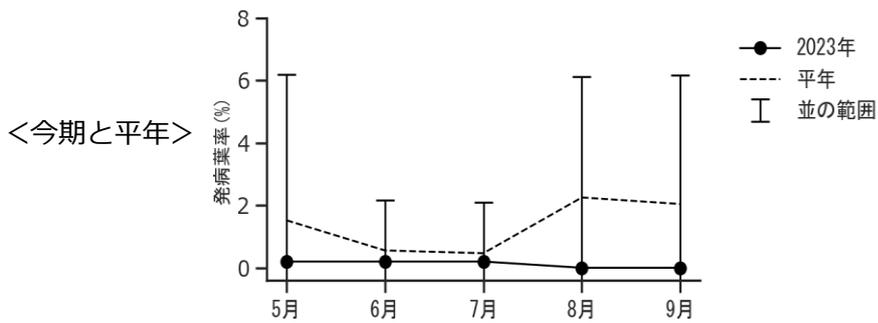


マンゴーツメハダニ

| | | | |
|-------|----------------|---------|---|
| 作物 | オクラ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予 報 | 9 月からの増減傾向 | — | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率0% (平年 : 29.5%)

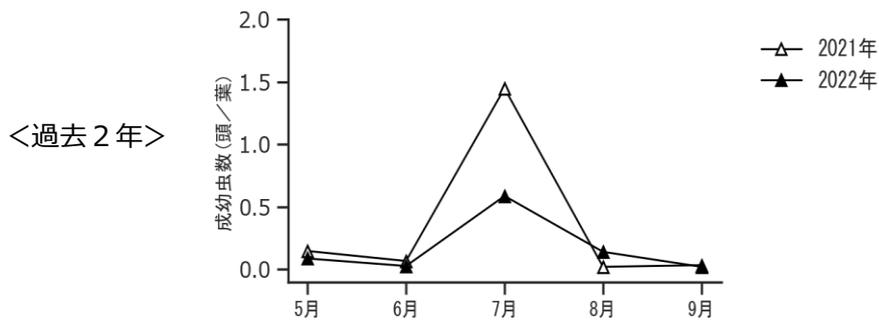
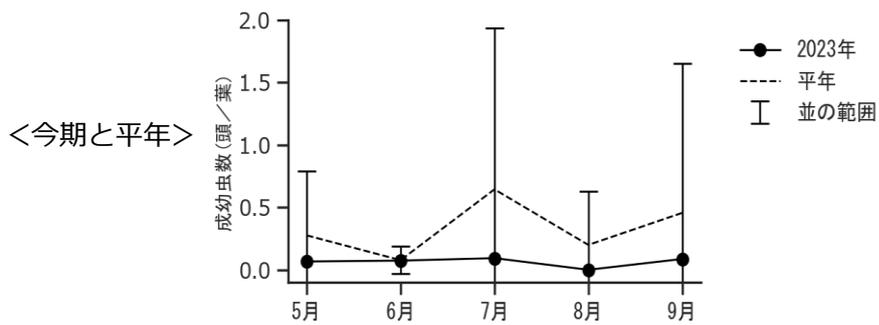
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

| | | | |
|-------|----------------|----|---|
| 作物 | オクラ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | — | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：34.1%)

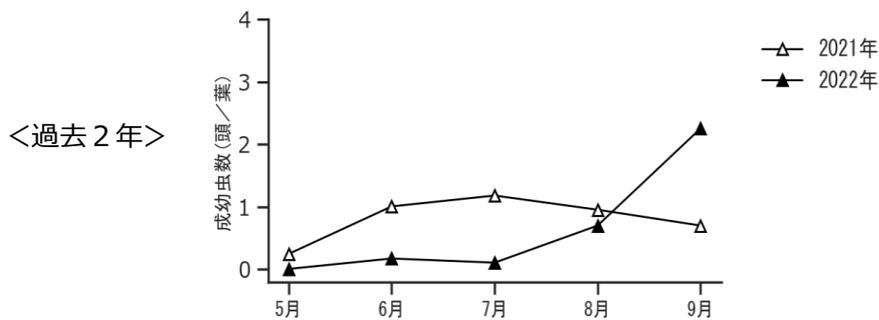
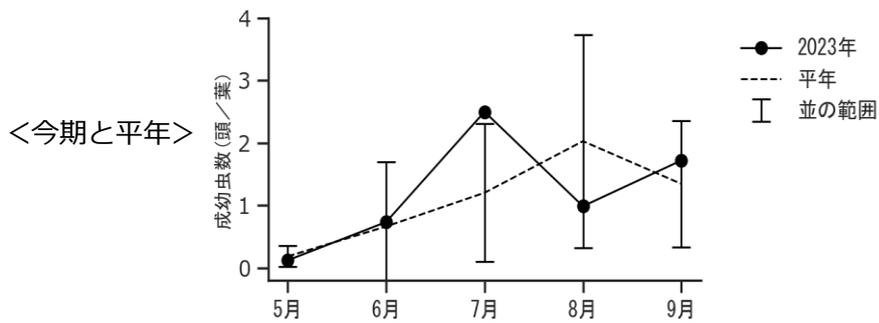
防除のポイント

・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、茎頂付近や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

| | | | |
|-------|---------------|----|---|
| 作物 | オクラ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | フタテンミドリヒメヨコバイ | | |
| 調査結果 | 9月の発生量(平年比) | 並 |  <p>成虫</p> |
| 予報 | 9月からの増減傾向 | — | |
| | 10月の発生量(平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 77.3%)

防除のポイント

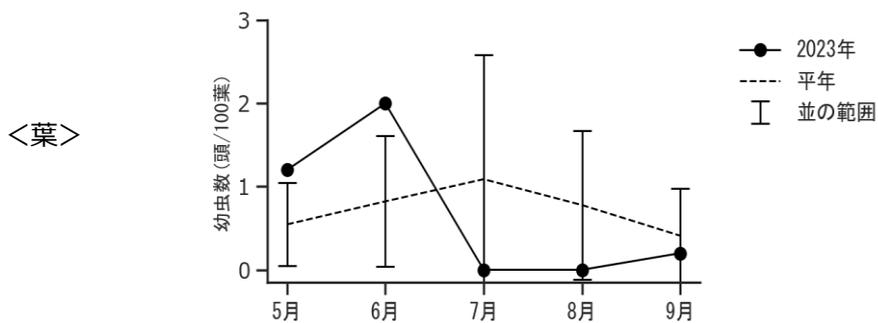
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



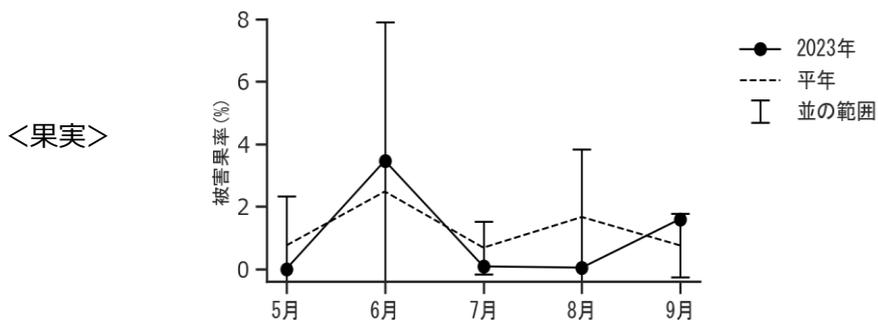
| | | | |
|-------|----------------|----|---|
| 作物 | オクラ | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チョウ目幼虫 | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | — | |
| | 10 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



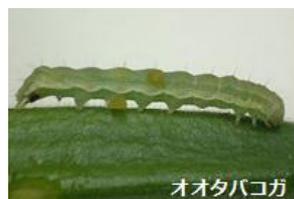
被害果率の推移 (今期と平年)



- ・発生種：クサオビリンガ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：20.5%)

防除のポイント

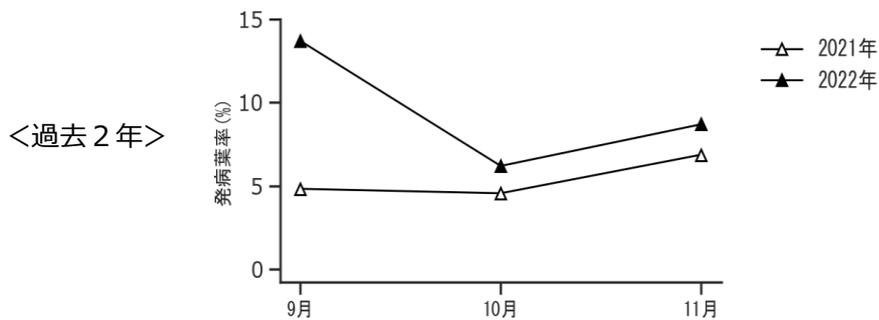
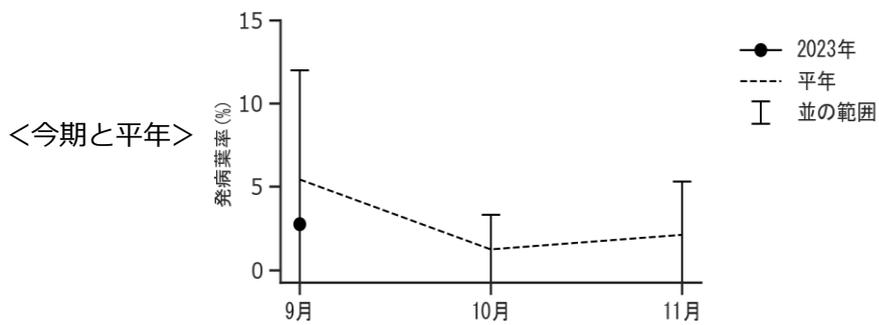
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



| | | | | |
|-------|---------------|--------------|---|------|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① 黒斑・褐斑病 | |  | |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予 報 | 9 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↓） | | |

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率77.8%（平年：43.4%）

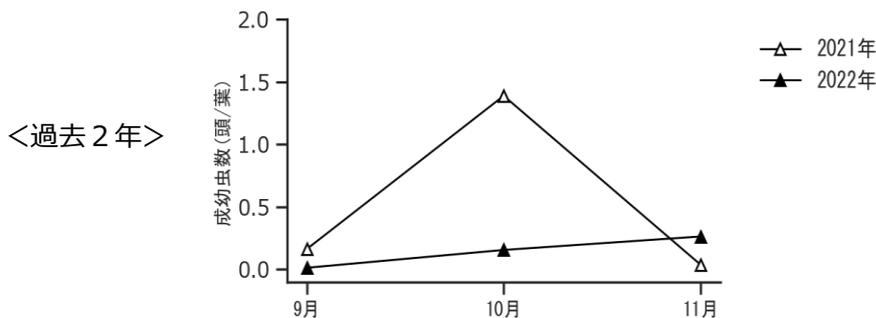
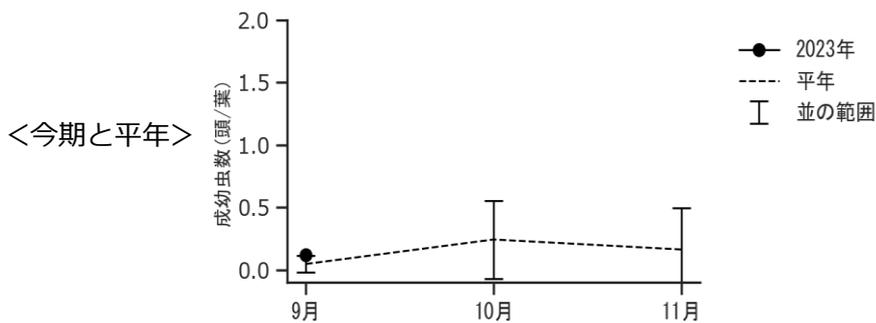
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。

| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ② アザミウマ類 | | |  <p>クロゲハナアザミウマ</p> |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | やや多 | | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | ↗ | | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | | |

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100%（平年：27.3%）

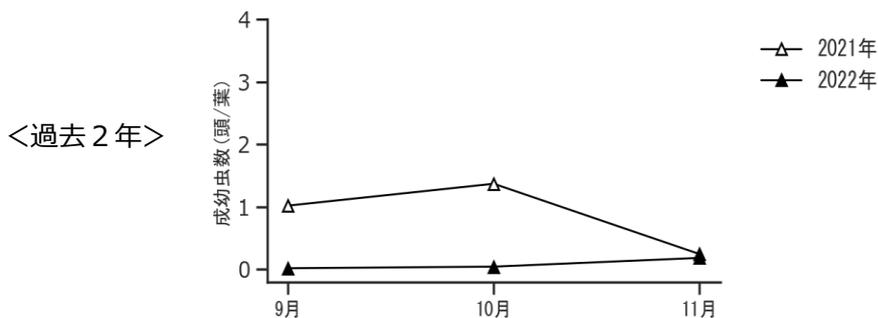
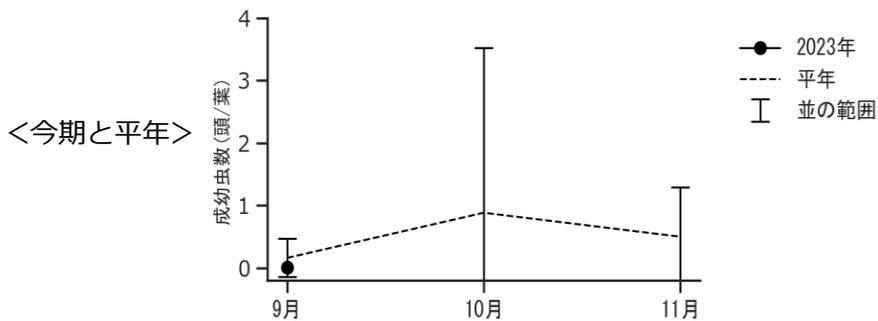
防除のポイント

- ・苗床での防除を徹底し、本畑への持ち込みを防止する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。

| | | | |
|-------|---------------|--------------|---|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ③ アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↗） | |

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率22.2%（平年：29.3%）

防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・新葉部を中心に発生が認められたら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

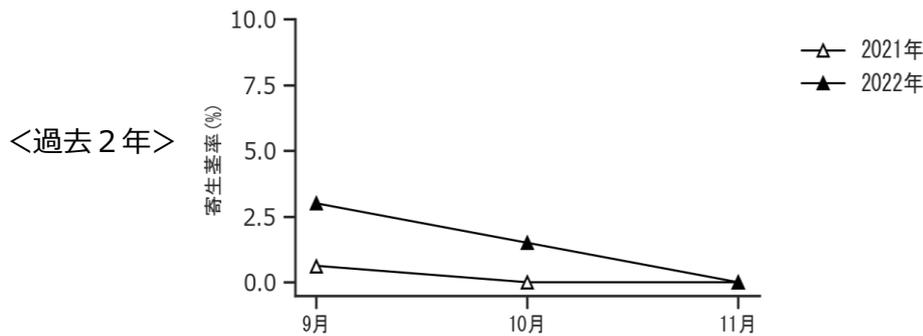
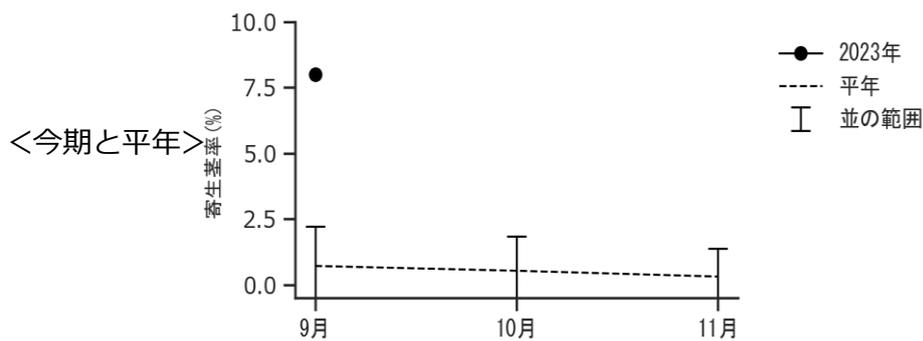


寄生の様子

| | | | |
|-------|---------------|--------------|---|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ④ チョウ目幼虫 | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | やや多 | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | → | |
| | 10 月の発生量（平年比） | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（→） | |

調査結果

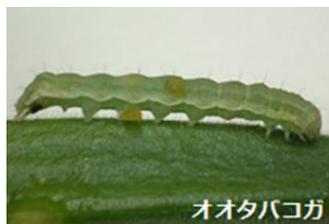
寄生茎率の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
- ・発生ほ場率33.3%（平年：9.3%）一部ほ場で多発

防除のポイント

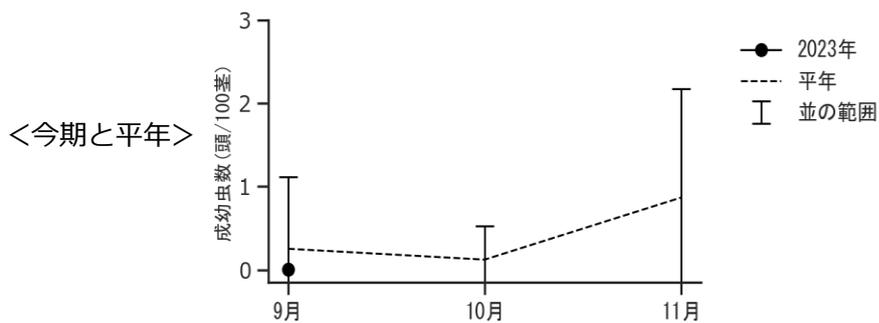
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



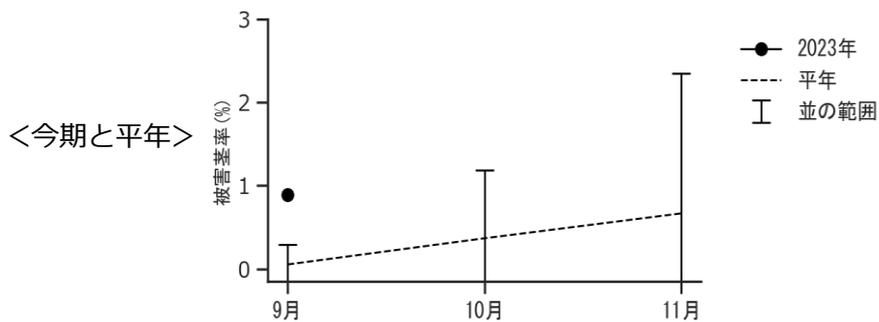
| | | | | |
|-------|---------------|--------------|----|---|
| 作物 | 小ギク（年末出荷用） | | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ⑤ カスミカメ類 | | |  |
| 調査結果 | 9 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報 | 9 月からの増減傾向 | ↘ | | |
| | 10 月の発生量（平年比） | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↓） | | |

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



・発生ほ場率11.1%（平年：3.0%）

防除のポイント

- ・ほ場周辺にキク科雑草の花等があると発生源となるため除去する。
- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。